

開催  
レポート

# 第1回 事前復興まちづくり ミーティング



令和 7 年 11 月 24 日 月・休

午後 2 時 - 4 時 30 分

会場：杉並区役所第4会議室（中棟6階）

## 参加者

区民・区内在勤者 21名

一般公募：広報やホームページ、Xなどにより募集

## 講師

早稲田大学 社会社会科学総合学院 講師

益子智之 先生

## 事務局

区職員 9名

### 1. 主管課説明 – 15分

### 2. 基調講演・質疑応答 – 50分

「事前復興が切り拓く都市の未来」 益子先生

### 3. グループワーク – 50分

ワーク① 震災後も大切にしたい

杉並の魅力と希望を語ろう

ワーク② 復興を契機に解決したい

杉並のまちの課題を探ろう

ワーク③ 復興後の理想的な杉並の

まちの姿を思い描こう

### 4. 発表・講評 – 20分

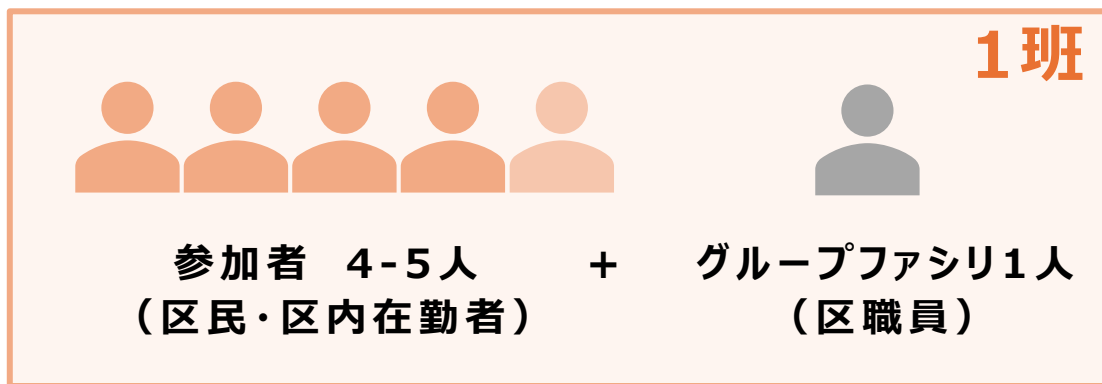


# グループワークの様子



# グループワークの進め方

## グループの編成



5 班 (A～E班)

## グループワークの流れ



グループワークの詳しい進め方について、次ページにまとめています



# グループワークの進め方

理想のすぎなみを思い描く！復興まちづくりビジョン作成ワーク

班

「都市の復興」とは…災害により傷ついたまちが、被災前よりも元気な、良いまちとして生まれ変わることを目指すこと

ワーク

①

震災後も大切にしたい  
杉並の魅力と  
希望を語ろう

## ①-step1

聴くオフ・ミーティングで  
いただいた“好きなところ”  
“希望”について、  
共感できる意見に

シールで投票

ひとりシール3枚 ●●●

## ①-step2

“好きなところ”

について、付箋を追加

ひとり1枚以上



復興を契機に解決したい  
杉並のまちの  
課題を探ろう

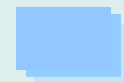


復興後の理想的な  
杉並のまちの姿を  
思い描こう

## ②-step1

杉並のまちの課題について、復興を  
契機に解決したいもの・解決できそ  
うなものについて、付箋を追加

何枚でも・思いついた分だけ



## ③-step1

“復興で目指すべきまちの姿”について、  
付箋を追加

何枚でも・思いついた分だけ



## ③-step2

グループメンバーの意見について、

いいなと思った意見にシールで投票

ひとり 3枚 ●●● + 優先的に採用したいもの1枚 ★



各グループの成果について、次ページ以降にまとめています

ワーク

②

ワーク

③





- お祭りをできるだけ早くできるように区が協力してもらう（例：阿波踊りの練習場所）
- 気軽に人が集まれる公共施設を作る
- 緑多く、家々、建物のすき間のゆとりある風の通る街なみ、スズメたちが、シジュウカラが子育てできる町並、無理かなあ
- 荻外荘、角川庭園、大田黒公園を守る
- 「杉並」という名にふさわしい豊かなみどり（公園や街路樹）
- おいしいお店を続けて
- せまい道路をなくす
- 河川沿いの道路を両サイド10mくらいにする

理想のすきなみを思い描く！復興まちづくりビジョン作成ワーク

「都市の復興」とは…災害により傷ついたまちが、被災前よりも元氣な、良いまちとして生まれ変わること

① 復興まちづくりの目標を「このように生まれ変わってほしい」という希望

② 現状の杉並区のまちの課題について、復興を契機に解決したいもの・解決できそうなものはありますか？

③ ①・②を材料に、「復興後の目指すべきまちの姿」について、グループ内でアイデア発散・意見交換をしよう

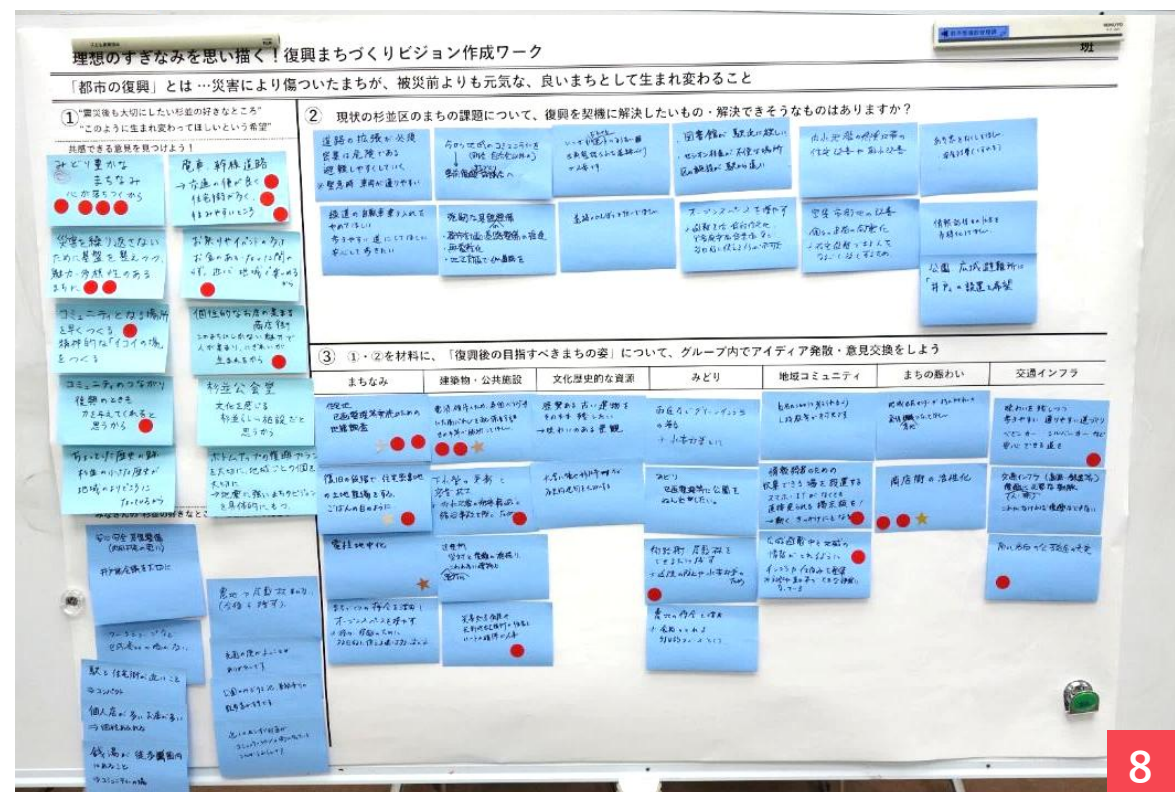
まちなみ	建築物・公共施設	文化歴史的な資源	みどり	地域コミュニティ	まちの賑わい	交通インフラ
緑多、家々、建物のすき間のゆとりある風の通る街なみ、スズメたちが、シジュウカラが子育てできる町並、無理かなあ	荻外荘、角川庭園、大田黒公園	荻外荘、角川庭園、大田黒公園	緑多、家々、建物のすき間のゆとりある風の通る街なみ、スズメたちが、シジュウカラが子育てできる町並、無理かなあ	地域コミュニティ	まちの賑わい	交通インフラ







- 広域避難中も地域の情報が取れるようにインフラや仕組みを整備
- 電源確保のため、各戸ベランダ等に太陽パネルを配備する。区の予算で補助してほしい。
- 味わいを残しつつ歩きやすい、通りやすい道づくり、ベビーカー・シルバーカーなど安心できる道を
- 街路樹・屋敷林をできるだけ残す
- 下水管の更新と容量拡大 ※内水氾濫の被害軽減と陥没事故を防ぐため
- 情報弱者のための収集できる場を設置する。
- 復旧の段階で、住宅密集地の土地整備をする。
- 商店街の活性化
- 南北方向の公共交通の充実
- 電柱地中化
- 災害拠点病院や震災救援所へのルート確保が必要





- 密集と防災の両立（文化の維持）
- 集合住宅住民が自治会・町内会に参加して、地域の一員として交流してほしい
- 安全に歩行できるような道路整備、自転車専用道路、電柱の撤去
- 雑多な街なみを残したい
- 人生百年時代、人生の生きがい
- 火災に強いまち→コミュニティの協力で訓練を定期的に
- 美
- 小学校跡地の利用
- 区としての消防団の組織化
- 駐車帯の廃止
- 歴史的建造物の保護・再建

想のすぎなみを思い描く！復興まちづくりビジョン作成ワーク

「都市の復興」とは…災害により傷ついたまちが、被災前よりも元氣な、良いまちとして生まれ変わること

①「震災後も大切にしたい杉並の好きなところ」  
「このように生まれ変わってほしいという希望」

②現状の杉並区のまちの課題について、復興を契機に解決したいもの・解決できそうなものはありますか？

③①・②を材料に、「復興後の目指すべきまちの姿」について、グループ内でアイデア発散・意見交換をしよう

まちなみ	建築物・公共施設	文化歴史的な資源	みどり	地域コミュニティ	まちの賑わい	交通インフラ
雑多な街なみ 残したい	美	小学校跡地の利用	優先順位 状況判断 誰が？	防災性 意味も	密集と防災 の両立 (文芸の相対)	E.V.バス 安全に歩ける ような道路整備 自転車専用道路 電柱の撤去
人生百年時代 人生の生きがい	消防団の組織化 (区レベル)	歴史的建造物の 保護・再建	バグニ化 災害の 自助・共助・互助	リーダシップ 今いそいそと 取り組まざる	駐車帯の廃止	マイクローモビリティ シェアリング 自転車 電動自転車
小学校跡地の利用	空家・空き地 有効活用	集合住宅の再開発 自治会・町内会に 参加して、まちを 良くする	防災性 意味も	密集と防災 の両立 (文芸の相対)	密集と防災 の両立 (文芸の相対)	マイクローモビリティ シェアリング 自転車 電動自転車



# 発表の様子





各グループからいただいた“復興後の目指すべきまちの姿”に関するご意見をカテゴリ別に整理してご紹介します。

## コミュニティ・防災拠点

- 誰もが安心して暮らせるコミュニティ形成
- 商店街を防災と経済の拠点に
- 地域区民センターをにぎわい発信基地に
- 気軽に集まれる公共施設
- 誰もが情報を受け取れる環境づくり
- 地域を担うリーダーの育成
- 町会・自治会参加の促進

## みどり・環境

- みどり豊かなまちなみの維持・形成
- 街路樹・屋敷林の保全
- 農地の保全・活用
- グリーンインフラの活用
- 公園を中心としたまちづくり
- 温暖化対策
- カーボンニュートラルの推進

## 住環境・都市デザイン

- 賑わいと静けさのメリハリある街づくり
- 駅近は低層集合住宅、戸建は郊外
- ゆとりのある住環境の維持
- 雑多なまちなみの魅力維持
- 歩きやすい道路  
(ベビーカー・シルバーカー対応)

## 交通・移動

- 南北交通の改善
- 駐車場の廃止
- 河川沿い道路の拡幅
- EVバス導入
- 自転車でも安全に通行できるまち
- マイクロモビリティ等の充実

## 文化・歴史の継承

- 荻外荘・角川庭園・大田黒公園の保全
- 大宮八幡宮・妙正寺など歴史的建造物の保護
- 阿波踊り・七夕祭りなど地域行事の継続
- 杉並の歴史教育（小中学校）

## 土地利用・空き家活用

- 区画整理で土地整備
- 小学校跡地の活用
- 空地の有効利用
- 空き家の買い取り・活用

## 防災・インフラ強化

- 震災・火災に強い建物
- 狭あい道路の改善・解消
- 避難路・オープンスペースの確保
- 災害時に利用できる公共施設（病院機能）
- 災害拠点病院・救援所へのルートの確保
- 下水管更新・容量拡大
- 安全な街区形成
- 非常時の電源確保
- 無電柱化

グループワークでは、復興後のまちにも、大切な“杉並らしさをのこしていきたい”、また、復興を契機に“+αのより住みやすいまちにしたい” “災害に強いまちにしたい”という意見が多く聞かれました。

杉並らしさを

まもる  
のこす

×

みんなの好きなところを

のばす  
つなぐ

×

安全性を高めるため  
まちの弱点を

かえる  
なおす



グループワークでいただいたご意見は、「(仮称)杉並区事前復興まちづくり方針」で定める

○都市復興の理念：都市の復興を進める上で前提とする考え

○都市復興の目標：復興によりどんなまちを目指すか

に活かしてまいります。貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。



グループワーク・  
発表を受けて  
益子先生からひと言

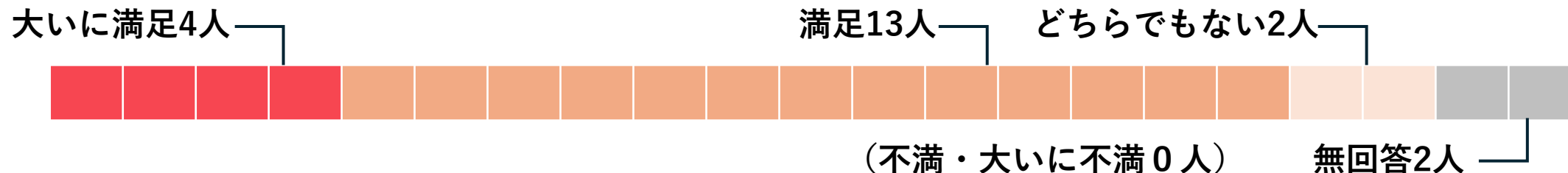
グループワークで各班を回中で、「価値観や美意識、考え方は、人それぞれやはり異なるものがあるよね。」という話が聞こえてきました。これは本当に重要なことで、異なる考え方を尊重しながら良い方向へ導くことの大切さを改めて感じた次第です。異なる考え方の一方を重視すればもう一方が疎かになってしまう可能性もあります。また相反する意見から中立的な要素だけを抽出すると、ぼやけたものになりかねません。災害復興においても「ジレンマ」という言葉が使われますが、そのジレンマとか矛盾、相克をどう解くのか、それぞれ異なる部分をうまくどちらも担保して、その解決策を出していくということが重要です。迅速性と緻密さ、刷新と継承など、異なる価値観をいかに包摂するかがポイントとなります。

災害後は、通常だと30年ぐらいかけてやることを、10年とか短い期間にやらないといけない。そのため、災害が起こる前から、復興後のまちのあり方を検討しておくことが極めて重要です。今日は色々な議論がありましたが、「防災性能の向上」と「雑多な杉並らしさ」をどう両立させていくのか、その相反するところは、やはり双方を満たすように作っていくというのが、杉並の事前復興の一つの鍵になると思います。

今日議論に上がったことは、区が今後策定する方針に反映されていくと思いますし、こういう議論を続けていくことが重要だと思いますので、皆さんには今後も「事前復興まちづくりミーティング」に継続的に関わっていただきたいと思います。



- ・ ミーティング全体の満足度



- ・ グループワークの感想（自由記述）

- ・ 楽しかったです。まちの復興について色々な意見が出て興味深いです。
- ・ 何回も続けていきたい。自分が関わることの楽しさを体験できた。
- ・ 復興後の目指すべきまちの姿について、色々な切り口があり良かった。
- ・ 多様な意見をまとめて発表し交換する機会は貴重だと思う。ほかの参加者との交流も楽しかった。
- ・ もっと踏み込んだ意見をいえる時間が欲しかったかな。

- ・ ミーティング全体の感想（自由記述）

- ・ まちの復興について多様な意見が聞けてとても有効だった。ネットではない人間同士の交流が新鮮である。
- ・ よい取り組みだと思います。ぜひ継続して幅広く多くの人に参加できる形にして頂きたいです。具体的な説明が多く、わかりやすく説得力があり良かったです。
- ・ 運営は大変だと思いますが継続を希望します。
- ・ 今後のミーティングで、本日講演の中であったようなモデル地区のまち歩きを入れてもよいのではないかな。